



第44号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 宝龜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

すべての座席が優先席

—シルバーシートは必要か—

横濱市交通局では、「優先席を拡大してほしい」「お年寄りや車内放送でもっとPRしてほしい」などの優先席に関する寄せられるお客様の意見や要望を受け、検討した結果、平成十五年十二月一日より横濱市営地下鉄の「すべての座席を優先席」にすることとなりました。

関西では、既報(二十九号)のように阪急電車が平成十一年四月一日より「優先座席」(シルバーシート)を廃止し、「全席を優先座席と考える」という新しい方式に切り替えました。横濱市市長は改革派の騎手として名高い中田宏氏ですが、公的機関としては全国に先駆けてシルバーシートを廃止し、仏教本来の牀座施(しょうざせ)を施策にいかした首長といえます。座席を譲ることを牀座施(しょうざせ)と云って、仏教では無罪の七施(財がなくてもできる布施)の一つに数えられています。布施とは、他人に金銭や品物を施すことです。しかし、

俺がお前に恵んでやっているんだぞ、という気持ちがあるにあってはならず、受者もまた施しを受けて義理を感じたり卑屈になつてはなりません。それに施物も清浄でなければならず、自分に不要になった物を施しても布施にはなりません。

満員電車で、お年寄りや身障者に座席を譲るのは、誰にでもできる布施行ですが、一年寄りがかわいそうだから、座らせてやる」という気持ちがあつては布施行にはなりません。そうではなく、「お年寄りに座つてほしい」という気持ちがいいから、座つていただくのです。したがって、「座つていただく」てありがたうございました」と座席を譲った者が心のなかで、そんな言葉を発する気持ちでなされたとき、それが真の布施行になるのです。

「優先座席」(シルバーシート)は、昭和五十年頃から私鉄各社に全国的に導入されました。各社ともだいたい一車両あたり六座席程度、車両の連結部あたり

りに設置されています。人口の高齢化をうけ、年寄り社会の到来をまえに、布施行の浸透しない世の中にあつて、そんな少数の座席では対応できず、今後、横濱市に習う公共交通機関も増えてくるよに思います。

小柄、昨年末に靖国神社参詣と、目黒五百羅漢寺拝塔に上京したおり、山手線の車中、優先座席は誰も座らず、空きのままでした。東京人は、こうしたマナーに厳格なのか、それとも単にエエカッコイなのか。本当にくたくたに疲れている時には座らせてもらつてもいいよな気がしました。

全席優先
席を譲って
いただけますか？

内部乗降の方や、お高齢の方など、ご乗入はすぐ早いのにも、外見では分からないこともあります。

「ゆずっていただけますか？」
「いいですよ、どうぞ」
こんなやりとりも気軽にできる、そんな乗降にしたいですね。



岡田阪神タイガース・大阪近鉄バッファローズ日本シリーズ(西大阪線対決) 祈願!

今を遡ること三百五十年前、承応三年（一六五四）七月五日、日本からの再三の請を受け、東シナ海の荒波を越え、中国の新風（禅）を伝えた一人の高僧がいました。

当時六十三歳の禅僧の名前は、隠元隆琦。私も黄檗宗の宗祖です。禅師は臨済義玄の師・黄檗希運が住山して臨済禅の道場として栄えた黄檗山萬福寺の住持となった僧で、明代末の中国における臨済系統の禅宗の重鎮でありましたが、日本では臨済正宗、明治以降に黄檗宗を名乗りました。

隠元禅師は、長崎の興福寺に入られるや、またたく間に後水尾法皇や將軍徳川家綱をはじめ、我が国の禅僧、大衆を魅了しました。その魅力を作ったのは、青少年期の懊悩（おうのう）でした。明後期の一五九二年に中国・福清県で生まれました。家は貧しく、幼少の頃に父は行商に出たまま消息不明となりました。二十歳のころ母親より結婚を勧められましたが、「父の行方を知らないのは子として不孝」と断り翌年父を探す旅に出たのです。その旅で途方に暮れ、普陀山で慈悲愛の観世音菩薩像に触れて仏教の心に目覚められました。結局、父とは会えずに帰郷しましたが、母の亡くなつた二十代後半、中国福建省の黄檗山萬福寺で出家し臨済禅の僧となり、三十歳頃より生死について追求しようと思心されたのです。一六五一年、日本側の求めで厦門（

隠元禅師東渡三百五十年

アモイ）を出て長崎にむかった弟子の也懶（やらん）が嵐で遭難しました。その代わりに日本の禅僧らに請われて仏教興隆を誓い、也懶と同じ行路で渡来されたのです。

三年間で帰国するつもりでしたが、六十歳をすぎたの来日で経験を基とした幅広い知識と魅力を備えていたため、当時京都妙心寺の龍溪禅師らに師と仰がれ、母国からの帰国要請もありました。將軍家綱の強い慰留もあり、宇治大和田の地に中国と同じ名前の寺を建てることを許され、寛文元年（一六六一）に寺を開き、日本・黄檗山萬福

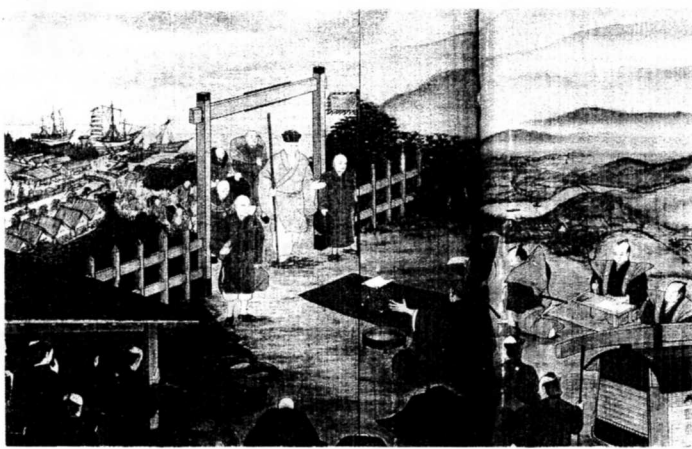
寺の住持となりました。

晩年は後水尾法皇と交流を深め、亡くなる二ヵ月前の延宝元年（一六七三）二月に、わが国では他にない絹の緞子（どんす）の「観世音菩薩像」を賜り、故郷を思い出され喜ばれ、四月二日、法皇から「大光普照国師」号を授かり、翌日示寂されました。行年八十歳。

隠元渡来が鎖国下の日本に与えた影響は枚挙にいとまがあります。当然、禅宗の世界には修行方法や禅堂の建築様式、坐禅のしかたや食事作法、朝晩の節経の鳴らしもの、唱えものの調子

を変えました。禅寺でお経に木魚をつかうのは黄檗以降のことで、徳川家は念仏を宗旨としますが、隠元によって新たに禅宗にも帰依します。四月八日の灌仏会（花まつり）に甘茶をそそぐようになり、選挙のはりばてダルマも黄檗の伝来なのです。

その他、煎茶やインゲン豆のほか、さまざまな野菜や草木を持ち込み、わが国の食や園芸文化に多大の貢献をしています。ことほどさように、黄檗禅の開創は、日本人の血肉と化しているのです。



隠元渡来の図。黄檗宗画僧内藤香林筆

奉納抄

編集後記

六地藏前掛け奉納

(平成十五年十二月)

大竹喜子さまより、境内墓地入り口の六地藏に紅白の前掛けを奉納していただきました。恒例のことで、厚くお礼申し上げます。

奉納のぼりは完納。一年間奉掲します

●半落ち

日本アカデミー賞の声もたかい映画「半落ち」を愚妻と観ました。「半落ち」とは、警察用語で、容疑者が容疑を一部自供するも完全には自供していない状態を意味するそうです。

寺尾聰演ずる主人公の法廷での場面が見どころとの報を受け、内容を知らずに観てしまいました。「あんなドラマと知っていたら絶対に観なかった」とは妻の弁。

映画は現役警官の属託殺人を廻って展開します。殺されたのはアルツハイマー型痴呆症を患う警官の妻。男はアルツハイマー病を発症した妻の看病のため、刑事を辞して警察学校で後進の指導にあたり、広く敬愛を集めてきました。そんな男がどうして妻を殺したのか。事件の鍵は、頑として隠しつづけた自首してくるまでの2日間の行動にあったのです。

自分が壊れていく、過去の記憶を失っていく自分に恐怖する時、妻は急性骨髄性白血病で亡くした一人息子への思慕の情を募らせ、そして夫から骨髄移植を受けて命を貰った青年を新宿に探します。

妻を絞殺したあと、首を吊ろうと鴨居の紐に手をかけたとき、偶然見つけた妻の日記。一人息子と妻かまでも病に奪われた男にとって、「私が壊れたら、あの人は一人きりになってしまう。あの人の絆を見つけたい」という妻の最後の文言は、彼を新宿へ取りたてるのです。

裁判の最後まで否認し続けた空白の2日間の意味の深さ・・・「血縁」と「結縁」が重なった「いのち」の繋がりに、観客は涙します。

アルツハイマー型痴呆症の弘忠和尚を看病した私たちにとっては複雑な思いでした。和尚は壊れゆく記憶の中で「新開地に行くにはどうしたらいいのですか」とのメモをもち、発病後よく地下鉄に乗っていました。「新開地」は和尚にとって、どういう意味があるのか、昔の記憶を呼び起



▼先代弘忠和尚は平均寿命の伸びたことを「人生七十にして死なぬは古来稀なり」と語っていました。
▼その原文を書いた盛唐の詩人・杜甫は「人生七十古来稀なり」と詠みましたが、前文には「酒債尋常行く処にあり」という詩句がついていました。飲み屋の借金はいつものことで、どこへ行っても飲みたおしている意味です。
▼小柄、今年に住職となり十六年にな

ります。ようやく前の教師生活と同じ年数になります。
▼本卦還り(ほんげがえり)といって上方では満六十歳のことを、ふりだしに戻りお祝いする習慣があります。
▼希望に燃え教職に奉職した年を思い出し、九島院の住持という「結縁」を大事に、「百尺竿頭に一步を進む」を肝に命じ精進したいと存じます。
▼本年は言わば小柄にとっての「本卦還り」の年。百尺の竿の先(頭)から一步を進むと地に落ちてしまいます。肝臓の数値を気にしつつ、日常底を大事に平常心です。す所存です。

山門会・お彼岸法要

3月23日(火)
午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。

講演? 落語家 桂 一蝶

ご案内

祝・阪神西大阪線難波延伸工事起工式(平成十五年十月七日)!